

令和6年度 Digital Innovation City 協議会

第5回DIC協議会総会 資料

2024/09/05

議事次第

1. 令和6年度DIC協議会の状況
2. 令和6年度PT・検討会の開催状況
3. 令和6年度実証事業の実施状況
4. 令和6年度の新規取組
5. 今後の予定

1

令和6年度 DIC協議会の状況

議事次第

1. 令和6年度DIC協議会の状況
2. 令和6年度PT・検討会の開催状況
3. 令和6年度実証事業の実施状況
4. 令和6年度の新規取組
5. 今後の予定

令和6年度 Digital Innovation City 協議会のスケジュール

- DIC協議会における取組予定は以下の通りです。
- PT・検討会の開催は、状況によりオンラインおよび書面による開催を取り入れる予定です。

取組		令和6年(2024年)									令和7年(2025年)				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
協議会	総会 連絡会	第1回 (書面)	第2回 (対面)	第3回 (書面)	第4回 (書面)		第5回 (対面)			第6回 (対面)			第7回 (対面)		
PT・検討会	会議		第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	第6回			
先端技術の 実装に向けた取組	エンタメ	計画 策定	コンテンツ開発				実施①	報告書 作成	コンテンツ開発			実施②	報告書 作成	実施③	報告 次年度計 画
	モビリティ	モビリティパーク 出展者等調整		公募	選定	準備	実証事業の実施		報告	次年度計画					
		AIスーツケース開発・テスト走行						リハ	実施						報告
		PMO ビジネスモデル検討	VRコンテンツ制作					リハ	実施						報告
	防災	実施内容調整		構築	実施	報告書作成		報告	次年度計画						
	環境・サステナビリティ	計画策定									実施	報告書 作成	次年度 計画		
	データ利活用促進		公募	選定	事業の実施						成果報告/ 分析・考察	最終 報告			
自動運転 (公道、公園内)	事業の実施		実装に向けた調査検討							成果報告/ 分析・考察	最終 報告				
DIC社会実 装支援窓口	スタートアップからの問い合わせ対応 ベンチャーキャピタル、アクセラレータ等からのスタートアップ紹介対応														
5G活用促 進事業	デジタルを活用した 実証の推進	実施調査							実施	成果報告/ 分析・考察	最終 報告				
DX推進 補助金	募集 開始	協議会による制度周知・支援													
新たな交 流・共創に 向けた広報	カンファレンス等での PR	スタートアップ向けカンファレンス等での出展・PR													
	HP/SNSでの周知	DIC協議会HPの刷新、SNSを活用した活動PRの推進(随時)													

第3回・4回総会（書面）について

- 第3回総会（書面）及び第4回総会（書面）を開催し、議決結果について各々7月5日及び8月5日に協議会委員へ通知いたしました。
- 議事は下記の通りでした。

<第3回総会（書面）の議事>

- （1）データ利活用促進検討会 委託事業者（誘引施策）の決定について：
ティフォン株式会社
- （2）データ利活用促進検討会 委託事業者（回遊性向上施策）の決定について：
株式会社バカン
- （3）データ利活用促進検討会 委託事業者（人流データ分析）の決定について：
株式会社unerry

<第4回総会（書面）の議事>

モビリティPT 委託事業者（モビリティパーク（仮称）の設置・運営等に関する実証）の決定について：
株式会社 テー・オー・ダブリュー

2

令和6年度PT・検討会 の開催状況

第1回エンタメPT 開催結果（概要）

日時	2024/06/05（水） 1300-1500
場所	東京臨海ホールディングス
参加者	東京都港湾局臨海開発部、（株）東京臨海ホールディングス、（株）フジテレビジョン、森ビル（株）、（一社）東京臨海副都心まちづくり協議会、（株）トムス、有識者、事務局
議事	主な意見等
今年度事業について	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度事業の実証計画について説明した。 <ol style="list-style-type: none"> 1：デジタルツイン・プロジェクションマッピングを使った「EVカート・チャレンジ」による賑わい創出に関する実証実験 2：デジタルツインを使った「バーチャル・フォーミュラE体験」による賑わい創出に関する実証実験 3：デジタルツインを使った「東京臨海メタバース」によるインバウンド創出に関する実証実験 ● 主な質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> 【デジタルツイン・プロジェクションマッピングを使った「EVカート・チャレンジ」による賑わい創出に関する実証実験】 ・過去の走行記録をプロジェクションマッピングで投影することで、過去の記録と競えるということか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ システムに負荷がかかるので、オペレーションレベルにどの程度落とし込めるか不明である。 ・昨年度は、主に若者が体験したと思うが、様々な年齢層が体験し、評価を得られればよい。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 無作為に体験者を選ぶのではなく、選定のルールを検討したい。 【デジタルツインを使った「東京臨海メタバース」によるインバウンド創出に関する実証実験】 ・メタバース空間を起点にインバウンドの誘引を狙うのであれば、例えば、旅行代理店との連携はあり得るのか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ メタバース空間上のコンテンツから旅行代理店へのパスをつなげることができればよいが、そこまで作りこむとなると数億円規模の予算が必要となる。まずは臨海副都心エリアを再現したフィールドをフォートナイト上に実装することが今年度のゴールとなる。

第2回エンタメPT 開催結果（概要）

日時	2024/08/21（水） 1300-1400
場所	フジテレビジョン
参加者	東京都港湾局臨海開発部、（株）東京臨海ホールディングス、（株）フジテレビジョン、森ビル（株）、（一社）東京臨海副都心まちづくり協議会、（株）トムス、有識者、事務局
議事	<p style="text-align: center;">主な意見</p>
<p style="text-align: center;">今年度事業 について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度事業実証計画の進捗について説明した。 <ol style="list-style-type: none"> 1：デジタルツイン・プロジェクションマッピングを使った「EVカート・チャレンジ」による賑わい創出に関する実証実験 2：デジタルツインを使った「バーチャル・フォーミュラE体験」による賑わい創出に関する実証実験 3：デジタルツインを使った「東京臨海メタバース」によるインバウンド創出に関する実証実験 ● 主な質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> 【デジタルツイン・プロジェクションマッピングを使った「EVカート・チャレンジ」による賑わい創出に関する実証実験】 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者は何名程度を想定しているか。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 昨年度と同様に500名程度を想定している。 ・検証項目、KPI、検証方法について教えてほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ コンテンツの満足度、にぎわい創出への評価、支払い許容額などをアンケートを通じて検証し、将来的な事業性についても評価する予定である。 【デジタルツインを使った「東京臨海メタバース」によるインバウンド創出に関する実証実験】 <ul style="list-style-type: none"> ・イベント仕立てにするのか。メタバース空間の維持に費用がかかるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一過性のイベントではなく、フォートナイト上にメタバース空間を構築すれば、残り続ける。構築した後のランニングコストはかからない。メタバース空間のアップデートには費用がかかるため、今年度は基礎的なベースを構築し、来年度、コンテンツの追加を行う予定である。

第1回モビリティPT 開催結果（概要）

日時	2024/05/31（金） 1500-1700
場所	東京臨海ホールディングス
参加者	東京都港湾局臨海開発部、（株）東京臨海ホールディングス、産業技術研究センター、産業技術総合研究所、日本科学未来館、有識者、事務局
議事	主な意見
今年度事業 について	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度事業の実施計画を説明した。 <ol style="list-style-type: none"> 1：「AIスーツケース」屋外走行実証プロジェクト 2：PARTNER MOBILITY ONE with PiiMo走行プロジェクト 3：モビリティパーク ● 主な質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> 【「AIスーツケース」屋外走行実証プロジェクト】 <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔管理システムの有無により法的な扱いが異なるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 遠隔からモビリティに動作指示を出すと車両区分が「遠隔操作型小型車」となり、道路交通法上の規制がかかる。車両情報を管理・モニタリングだけであれば、車両区分は「歩行補助車」のまま変わらず、みなし歩行者として運用できる。 【PARTNER MOBILITY ONE with PiiMo走行プロジェクト】 <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画にて示されている予算のうち、広報費として捻出できる項目はあるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ PR動画やビジネスモデルの構築など自社にて実施することで、DICの予算としては削減でき、浮いた分を広報に回すことはできると考える。 【モビリティパーク】 <ul style="list-style-type: none"> ・配送ロボットや警備ロボットも出展対象となるのか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 回遊性の向上を目的として掲げているので、メインは人の移動を円滑にするモビリティと考えているが、ロボットまでスコープを広げることは検討し得る。モビリティとロボットの共存も実現できれば、未来都市のブランディング、臨海副都心エリアの価値向上に繋がる。

第2回モビリティPT 開催結果（概要）

日時	2024/07/31（金） 1500-1700
場所	東京臨海ホールディングス
参加者	東京都港湾局臨海開発部、（株）東京臨海ホールディングス、産業技術研究センター、産業技術総合研究所、日本科学未来館、有識者、事務局
議事	主な意見
自動運転プロジェクトについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度自動運転プロジェクトの実施結果について説明した。 ● 主な質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> ・実装を目指すのであれば、将来的には路上駐車がされている車両を自動で避ける必要があるが、その点について技術的な現状を教えてください。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 現状は自動で回避できない。今後技術の向上が期待される。また、自動運転専用レーンの敷設など、インフラの整備も求められるであろう。
今年度事業について	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度事業実施計画の進捗を説明した。 <ol style="list-style-type: none"> 1：「AIスーツケース」屋外走行実証プロジェクト 2：PARTNER MOBILITY ONE with PiiMo走行プロジェクト 3：モビリティパーク ● 主な質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> 【「AIスーツケース」屋外走行実証プロジェクト】 <ul style="list-style-type: none"> ・将来的に、何を遠隔管理しようとしているのか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介助者無しでユーザーが単独で使用している状況において、AIスーツケースの位置、バッテリー残量、周囲の状況等を遠隔で確認できるようにすることを想定している。 【PARTNER MOBILITY ONE with PiiMo走行プロジェクト】 <ul style="list-style-type: none"> ・実証を通じて、エリアへの実装に向けて規制面でどのような課題があるのか可視化し整理することも重要である <ul style="list-style-type: none"> ➢ 制度上の課題も整理したい。

第1回防災PT 開催結果（概要）

日時	2024/06/05（水） 1300-1500
場所	東京臨海ホールディングス
参加者	東京都港湾局臨海開発部、（株）東京臨海ホールディングス、（株）フジテレビジョン、森ビル（株）、（一社）東京臨海副都心まちづくり協議会、有識者、事務局
議事	主な意見等
今年度事業について	<ul style="list-style-type: none">● 今年度事業の実施計画について説明した。 TIF2024防災イベント● 主な質疑応答<ul style="list-style-type: none">・デジタル防災カードの写真について、どのように作成する想定か。<ul style="list-style-type: none">➢ デジタル防災カードの作成方法については、検討中である。ファンが収集したいと思えるイメージにしたい。・指定スポットに到着すると、防災に関連する音声や防災知識などを得られる「防災デジタルカード」を獲得できるとのことであるが、一方的に情報を発するよりも、例えば、クイズ形式にして、体験者が考える仕掛けをすることで、知識の定着度が高まると思う。消防庁が公開している防災クイズをうまく活用できないであろうか。<ul style="list-style-type: none">➢ 検討したい。・昨年度の実証では、外国人や障がい者も参加したのか。<ul style="list-style-type: none">➢ チケット販売や当日参加にあたり、個人情報を取得する形にしなかったため、参加者の属性については把握できていない。・どのような暑さ対策を考えているのか。<ul style="list-style-type: none">➢ 専用アプリでの注意喚起や給水所や休憩所を設けるなど、イベント運営側が適切に対策している。

第2回防災PT 開催結果（概要）

日時	2024/08/21（水） 1300-1400
場所	フジテレビジョン
参加者	東京都港湾局臨海開発部、（株）東京臨海ホールディングス、（株）フジテレビジョン、森ビル（株）、（一社）東京臨海副都心まちづくり協議会、有識者、事務局
議事	主な意見
今年度事業 について	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度実証事業の実施結果（速報）について説明した ● 主な質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> ・スタンプラリーを体験したが、コンテンツを楽しみながら防災知識も得られて良かった。アンケートにおいて、「やや満足した」が一番多い理由を教えてください。 ➢ 既知の知識が多かったり、酷暑の中スタンプラリーを回るのが大変であったことなどの理由が考えられる。 ・現地参加した810名は、全イベント参加者の凡そ何パーセントにあたるのか。 ➢ イベントへの参加者数は現在主催者側で集計中であるが、去年は3～4万人参加しており今年も同程度と考えている。そのうちの810名なので、割合は限定的である。アプリの正式発表がイベント直前になってしまったことも影響していると考えられる。 ・実施計画書には来年度にエリア内事業者への横展開を図る旨記載されているが、今次実証事業での検証結果を踏まえた来年度事業の展望を教えてください。 ➢ デジタルスタンプラリーの防災知識は流用できる。エリア内事業者が、従業員などへの防災訓練に利用したいとのことであれば、コンテンツをカスタマイズする形で横展開可能と思っている。関心があれば、まち協の防災訓練にも活用できると考える。

第1回環境・サステナビリティPT 開催結果（概要）

日時	2024/06/17（月） 1500-1700
場所	乃村工藝社
参加者	東京都港湾局臨海開発部、（株）東京臨海ホールディングス、（一社）東京臨海副都心まちづくり協議会、産業技術総合研究所、日本科学未来館、（株）乃村工藝社、有識者、事務局
議事	主な意見
今年度事業 について	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度事業の実施計画について説明した。 音のAR体験『oto rea』による臨海エリア拡張基盤構築 ● 主な質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実証では、既定のルートから外れた場合に戻る指示がうまく機能しなかった点や光の反射により画像認識がうまく機能しなかった点など技術的な課題があったと考える。その課題に対処する解決策を検討しているとの理解でよいか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 昨年度の課題を踏まえて、技術的にバージョンアップさせる予定である。 ・東京都の環境・サステナビリティに関する事業として行っている取組である以上、環境やサステナビリティという点を一般人に理解しやすい形で表現する必要がある。例えば、oto-reaを活用して、臨海副都心エリアにある植栽の多様性に関する認知を拡大するという切り口も考えられる。実施計画上、実証の目的が回遊性向上になっている点は修正が必要と考える。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ まち協が関わる形で、エリアの脱炭素化に向けた委員会が立ち上がり、今年度から本格的に稼働する。その動きも踏まえて、環境やサステナビリティの要素を検討していきたい。 ・事業3年目にて商用という目的となっているがその道筋に関する構想を教えて欲しい。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ DICによる支援後も取組を継続するためには、事業化がカギとなる。将来的には、エリアの各施設がガイドやイベントに応じて内容をカスタマイズして、oto-reaを利用できるようになればよい。このためには、エリアの各事業者の声を拾うことが重要であり、今年度はパートナーシップの強化に注力したい。

第2回環境・サステナビリティPT 開催結果（概要）

日時	2024/08/28（水） 1500-1600
場所	東京臨海ホールディングス
参加者	東京都港湾局臨海開発部、（株）東京臨海ホールディングス、（一社）東京臨海副都心まちづくり協議会、産業技術総合研究所、日本科学未来館、（株）乃村工藝社、有識者、事務局
議事	主な意見
今年度事業について	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度事業実施計画の進捗について説明した。 音のAR体験『oto rea』による臨海エリア拡張基盤構築 ● 主な質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業を通じて、行政事業として、どのようなまち創りに貢献するのかという目指すべきゴールや本ソリューションの強みを関係者間でコンセンサスをとった方がよい。また、ゲーム性を追求するのであれば、ベンチマークとなる具体的なゲームを示した方が関係者のイメージが湧きやすく、効果的に方向性に関する議論を進められると考える。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 次回PTで説明したい。 ・ユーザーが単独でプレイする形よりも、複数のユーザーでプレイする形の方が楽しくなり、ユーザー数の増加に繋がると考える。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 指摘の点については、昨年の事業を通じても実感した。本年の事業でも考慮したい。 ・本ソリューションを通じて、ユーザーの再訪を促すことを目指すとのことだが、再訪性を検証するためにどの程度事業実施期間を確保する予定か。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 15日～30日程度実施予定であり、その中でユーザーの再訪を検証したいと考えている。 ・まちの事業者との連携を目指しているとのことだが、どのような連携の形を想定しているのか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ まだ検討段階にあるが、例えば、施設内の一部をコンテンツに組み込むことや施設のキャラクターを利用することなどをイメージしている。

第1回データ活用促進検討会 開催結果（概要）

日時	2024/07/26（金） 1500-1700
場所	東京臨海ホールディングス
参加者	東京都港湾局臨海開発部、（株）東京臨海ホールディングス、森ビル（株）、産業技術研究センター、産業技術総合研究所、（株）バカン、ティフォン（株）、（株）unerry、有識者、事務局
議事	主な意見
今年度事業について	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度事業の実施計画について説明した。 <ul style="list-style-type: none"> ・回遊性向上施策 ・誘引施策 ・人流データ分析 ● 主な質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> 【回遊性向上施策】 <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール上では、関係施設との調整を開始するタイミングであるが、既に各施設とのリレーションがあるのか、それともこれから開拓していくのか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ これから開拓する。可能であれば、各施設との繋がりをサポートしてもらえれば有難い。 【誘引施策】 <ul style="list-style-type: none"> ・本委託の目的であるエリアへの誘引の効果検証を行うにあたり、KPIとして掲げられている利用者の満足度合は相関関係ないように見える。この点はどのように受け止めればよいか。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 利用者の満足が高い魅力的なコンテンツであれば、SNSなどを通じて口コミ広まり、エリアへの誘引につながると考えている。その意味で、相関関係がないとは考えていない。 【人流データ分析】 <ul style="list-style-type: none"> ・まちの事業者に対して、分析したデータの利用方法に関する説明を行っていただきたいと考えており、別途調整させていただくことは可能か。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 承知した。他の似たような事業でもデータの利用方法についてレクチャーすることも可能である。

第2回データ活用促進検討会 開催結果（概要）

日時	2024/08/22（木） 1500-1700
場所	オンライン
参加者	東京都港湾局臨海開発部、（株）東京臨海ホールディングス、森ビル（株）、産業技術研究センター、産業技術総合研究所、日本科学未来館、（株）バカン、ティフォン（株）、（株）unerry、有識者、事務局
議事	主な意見
今年度事業について	<ul style="list-style-type: none">● 今年度事業の進捗状況について報告を受けた。<ul style="list-style-type: none">・回遊性向上施策：店舗設置に関して遅延・誘引施策：概ねスケジュール通り・人流データ分析：概ねスケジュール通り● 主な質疑応答<ul style="list-style-type: none">【回遊性向上施策】<ul style="list-style-type: none">・LUUPとの協業は良い方向という印象。ドコモシェアサイクルとの連携もあればいいと思うため、連携可能性があれば紹介もできる。<ul style="list-style-type: none">➢ ご紹介いただき、協業の可能性を探りたい。【誘引施策】<ul style="list-style-type: none">・実施時期が12月となっているが、クリスマスのような季節感を出すことはしないのか。<ul style="list-style-type: none">➢ 検討し、背景エフェクト等にて考慮したい。【人流データ分析】<ul style="list-style-type: none">・事前に説明されていた人流データから飛躍しているように見受けられるが、マップ上にデータを入りしただけのアウトプットから変更されたのか。<ul style="list-style-type: none">➢ ジオデータが入っているデータを利用していることは変わらないため、マップ上のアウトプットも可能。

3

令和6年度 実証事業の実施状況

各PT・検討会での事業内容一覧

➤ 前回総会報告からの更新点は赤字のとおりです。

PT・検討会	実施内容	採択企業	採択年度	終了年度	R6実証時期
エンタメ	デジタルツイン・VR・EVカート等を活用したバーチャル&リアル融合型エンタメの実証実験	トムス	23年度	25年度	2024年9月以降
モビリティ	ナビゲーションロボット「AIスーツケース」屋外走行実証プロジェクト	日本科学未来館	22年度	24年度 (最終年度)	2024年11月
	小型自動運転モビリティ PARTNER MOBILITY ONE with PiiMo走行プロジェクト 2024	Le Design	22年度	24年度 (最終年度)	2024年11月
	モビリティパークの運営	テー・オー・ダブリュー	24年度	24年度	2024年9月～11月
防災	TIF2024デジタル防災イベント	フジテレビ	23年度	25年度	2024年8月 (完了)
環境・サステナビリティ	音のAR体験『oto rea』による臨海エリア拡張基盤構築	乃村工藝社	23年度	25年度	2025年1月～2月
データ利活用促進	人流データの収集・分析	unerry	24年度	24年度	2024年11月～12月
	臨海副都心エリアへの誘引施策	ティフォン	24年度	24年度	2024年12月
	臨海副都心エリアにおける回遊性向上施策	バカン	24年度	24年度	2024年9月～3月
5G普及促進事業	臨海副都心エリア特有のフィールドにてデジタル技術を活用するコンテンツの実証 (ドローンショー)	IMAGICA EEX	24年度	24年度	2024年12月以降

TIF2024デジタル防災イベント

日時	2024/08/02-08/04
場所	フジテレビ湾岸スタジオ～セントラル広場～フジテレビ本社 TIF開催エリア全体
事業内容	<p>【目的】防災に関する知識や経験をより深めてもらうため、「楽しくためになる防災イベント」として意識向上知識啓蒙を図るとともに、今後のエリア全体で応用できる防災訓練、防災対策のベースとなるものを目指す。</p> <p>【実施内容】世界最大規模のアイドルイベント『TIF2024』において防災デジタルスタンプラリーを実施。8月2日開催の「防災トークステージ」ではスタンプラリーの内容紹介、防災クイズなどを行った。</p>
事業結果	<ul style="list-style-type: none">● 事業への参加者：750人（延べ810人） 3日間で延べ810人が参加。 複数日に参加した方も多く、複数回参加者を除くと750人の参加となった。● アンケート回答結果：37人 ※『TIF2024』への参加延べ人数：約8万人 ※本事業への参加アイドルグループ数：11組（『TIF2024』に参加した総数は195組）
分析・評価	<ul style="list-style-type: none">● 実証効果（アンケート結果）<ul style="list-style-type: none">・【防災知識等の定着のための手段としての効果】 94.5%の方が「効果的と思う」と回答（「とても効果的だと思う」+「効果的だと思う」+「やや効果的だと思う」の合計）・【参加後の防災意識】 81%の方が「防災意識が高まった」と回答（「とても意識が高まった」+「意識が高まった」+「やや意識が高まった」の合計）
今後の展開	<ul style="list-style-type: none">● 実証実験内容(案)：デジタル防災スタンプラリーの臨海副都心エリアでの拡大展開● 実施目標（案）<ul style="list-style-type: none">・今年度の検証を活かし、2025年度はより参加しやすく効果のあるTIF防災スタンプラリーを目指す・猛暑時の開催の弊害も考慮し、室内会場での展開、オンラインでの展開なども検討予定・エリア内の企業や施設で利用可能な、楽しみながら参加できる防災訓練（スタンプラリー）の開発

TIF2024デジタル防災イベント（当日の様様）



TIF2024デジタル防災スタンプラリーカード

ゲリラ豪雨に注意③

ごく狭い範囲に短時間で強い雨が降る「局地的大雨」や激しい雨が数時間にわたって降り続く「集中豪雨」などによって引き起こされる災害も増えています。こうした雨は狭い地域に限られ突発的に降るため、発生の予測は難しく、突然状況が変わります。特に、屋外では次のような場所は、急激に水が流れ込んだり、増水したりして危険です。少しでも異常を感じたら避難しましょう。

- ・地下街などの地下施設
- ・住居の地下室、地下ガレージ
- ・道路のアンダーパス
- ・川原、中洲、親水公園
- ・下水道管、用水路

デジタルツイン・VR・EVカート等を活用したバーチャル&リアル融合型エンタメの実証実験

テーマ
エンタメ
臨海副都心の課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨海部の立地的特性を活かしたエンタメ施設が減少しつつある中で、先端的なテクノロジーを活用した新たなエンタメコンテンツを生み出し、根付かせ、集積させることが必要 2. デジタルやバーチャル技術等を活用した臨海副都心エリアへの新たな誘導施策を展開することが必要 3. 2024年春開催予定の“フォーミュラe”や“東京ベイeSGプロジェクト”の機運醸成や認知向上を推進することが必要
2025年に目指す姿
<ol style="list-style-type: none"> 1. 最先端の「バーチャル&リアル融合型エンタメ」として、臨海エリアの核となり、更なるエンタメの集積を誘発する 2. 臨海部のデジタルツイン上でモータースポーツ体験を提供することで、フォーミュラe開催地としての世界的な認知を加速するとともに、国内外から臨海部へ人が訪れる入口となる 3. 障害を持つ児童や高齢者も含めた、誰もが参画できる臨海部発のwell-beingなコンテンツとなる
企画概要
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画名称案 「デジタルツイン・VR・プロジェクションマッピング・EVカート等を活用したバーチャル&リアル融合型エンタメの開発・実証」 ■ 企画概要案 以下3つのコンテンツを企画 ・デジタルエンタメの・開発実証「シティ・サーキットTokyoBAY」 ・EV(電動)カート「リアル vs. バーチャル レース」プロジェクト ・大型半球体VR装置を活用した「没入型VR公道レース」

活用する主な先端技術	
<ol style="list-style-type: none"> 1. デジタルツイン（バーチャルでの臨海副都心の再現等） 2. 大型半球体VR装置（デジタルツインの没入型体験デバイス） 3. 最先端EVカート（遠隔制御、位置情報リアルタイム伝送等） 4. インタラクティブ・プロジェクションマッピング（リアルvs.バーチャルレース） 	
企画参加者・役割	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画・全体統括・コンテンツ開発：(株)トムス ■ 技術開発・運用：WONDER VISION TECHNO LABORATORY(株) ■ 協力：森ビル(株)、(株)乃村工藝社、パナソニック(株)、ほか 	
3か年計画	
1年目 (済)	<ul style="list-style-type: none"> ■ α版の開発と実証実験 ■ アンケート調査を実施し、課題点や改善点の抽出
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ β版の開発と実証実験 ■ 正式版開発及び実装・実運営準備
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 正式版の実装・実運営、国内外への更なる情報発信 ■ 臨海部の周辺施設・他事業者との連携強化
想定KPI	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者満足度（アンケート） ■ デジタル集客施策における体験者数 	

デジタルツイン・VR・EVカート等を活用したバーチャル&リアル融合型エンタメの実証実験

令和6年度実証内容



①EV（電動）カート「リアル vs. バーチャルレース」プロジェクト

- ✓ 過去に走行したプロドライバーのゴースト等を実在の（リアル）サーキットの路面にプロジェクションすることで、リアルとバーチャルを融合させたレース・コンテンツを開発し、実運用化を目指すプロジェクト。
- ✓ 令和5年度では「Phase.1」として、小学生向けにα版の実証実験を実施。令和6年度ではコンテンツのアップデートと実証を実施予定（令和6年9月）。



②「東京臨海メタバース」プロジェクト

- ✓ 臨海部の公道と、シティ・サーキットTokyoBAYコースをオンライン上でも走行できるデジタルツイン環境を構築し、誰もが平等に参画できるバーチャル・レースの開催に向けたプロジェクト。本レース参加を通じて、臨海副都心エリアの世界的な認知向上につなげる。
- ✓ 令和6年度の新たな取組として、α版（令和7年1月）、β版（令和7年2月）の実証実験を実施予定。



③バーチャル・フォーミュラE体験プロジェクト

- ✓ “フォーミュラE”のコースをデジタルツイン化し、大型半球体のVR装置に投影することで、実際に臨海部で公道レースに参画しているような没入型レース・エンタメ・コンテンツを開発し、実運用化を目指す。“JAPAN MOBILITY SHOW”との連動も検討。大型イベント開催時のみの盛り上がりだけでなく、臨海部に最先端モビリティが定常的にあることを想起させるエンタメコンテンツを目指す。
- ✓ 令和5年度では「Phase.2」として、フォーミュラEの公式シミュレーターとの連携を実施。令和6年度も継続実施予定（令和7年3月）。

ナビゲーションロボット「AIスーツケース」屋外走行実証プロジェクト

テーマ	活用する主な先端技術						
モビリティ	<ol style="list-style-type: none"> 自律型視覚障害者ナビゲーションロボット 屋外走行に向けた高精度測位技術の統合 						
臨海副都心の課題	企画参加者・役割						
<ol style="list-style-type: none"> 臨海副都心エリアにおける移動弱者（障害者・高齢者など）の自由な域内移動、回遊の困難さ、アクセシビリティの脆弱性 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画・運営：国立研究開発法人科学技術振興機構 日本科学未来館 ■ 走行ルート協力：ダイバーシティ東京プラザ（仮） ■ イベント運営・広報：モビリティパーク運営受託事業者 						
2025年に目指す姿	3か年計画						
<ol style="list-style-type: none"> 臨海副都心における充実した歩行領域、様々なコンテンツや施設・イベントを収容できる広域性という特性を生かすとともに、エリアの課題であるパーソナルな移動のアクセシビリティ向上 一般健常者のみならず、移動に不自由がある人々（視覚障害者等）も、AIナビゲーションやロボット、自動運転といったサービスを活用することで、各拠点間の自由な移動、回遊が生まれ、気軽に街やイベントを楽しむことができる、インクルーシブなまちの実現 	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">1年目 (済)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ 屋外走行・ナビゲーション機能の実証 - 未来館⇄近隣屋外（シンボルプロムナード公園）での走行実証 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">2年目 (済)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域拠点間 屋内外ナビゲーション実証 ■ 施設内ナビゲーション実証 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #add8e6; text-align: center;">3年目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ 遠隔管理システム実証 ■ 施設内定常運用実証開始 </td> </tr> </table>	1年目 (済)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 屋外走行・ナビゲーション機能の実証 - 未来館⇄近隣屋外（シンボルプロムナード公園）での走行実証 	2年目 (済)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域拠点間 屋内外ナビゲーション実証 ■ 施設内ナビゲーション実証 	3年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 遠隔管理システム実証 ■ 施設内定常運用実証開始
1年目 (済)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 屋外走行・ナビゲーション機能の実証 - 未来館⇄近隣屋外（シンボルプロムナード公園）での走行実証 						
2年目 (済)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域拠点間 屋内外ナビゲーション実証 ■ 施設内ナビゲーション実証 						
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 遠隔管理システム実証 ■ 施設内定常運用実証開始 						
企画概要	想定KPI						
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画名称案 「ナビゲーションロボット「AIスーツケース」屋外走行実証プロジェクト」 ■ 企画概要案 今後の社会実装・サービス化に向け市街地での複数台運用を想定し、そのために必要な遠隔管理システムの開発を推進中。今回の実証では、離れた場所からでも運行状況や機器の状態が問題なく把握でき、技術者が随伴しない環境での安全・安定運用を検証する。また、将来的な実用環境を想定し、実証の走行距離延長、信号のある横断歩道の横断（R6年度は保安要員有）も実施する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザー満足度（アンケート） 						

3 令和6年度実証事業の実施状況

ナビゲーションロボット「AIスーツケース」屋外走行実証プロジェクト

令和6年度実証内容



走行ルート全体図（上図①～⑤までのルートを想定）

■ 実施日程

2024年11月14日（木）～24日（日）

■ 取組内容

離れた場所からでも運行状況や機器の状態が問題なく把握でき、技術者が随伴しない環境での安全・安定運用を検証する。また将来的な実用環境を想定し、実証の走行距離延長、信号のある横断歩道の横断（保安要員有り）も実施する。

■ 実証項目

【技術検証】 走行状況の遠隔モニタリング

・ロボットの場所・位置、各 부품の動作状況、走行速度、ロボットの姿勢、電池残量 等

【運用検証】 非常時の遠隔操作

・再起動のみで、移動制御は行わない。

※遠隔管理端末では基本的にモニタリングのみを行い、現場での安全管理は運営スタッフが行う。非常時など、必要な時にのみ遠隔より再起動の対応を実施。

※実際の実証前に事前走行テストを行う

小型自動運転モビリティPARTNER MOBILITY ONE with PiiMo走行プロジェクト 2024

テーマ
モビリティ
臨海副都心の課題
<ol style="list-style-type: none"> りんかい線やゆりかもめの1次到着駅から最終目的地までの2次交通が不足しており、移動に不安を抱える高齢者や障がい者の利便性に改善余地がある（SDGs 課題） 各エリア到着後の回遊支援も不足。移動弱者が、家族や友人と一緒に観光やショッピングを楽しむのが難しい
2025年に目指す姿
<ol style="list-style-type: none"> スマートモビリティを活用した新たな観光サービスが実装され、小さなお子さんから高齢者、障がい者まで、すべての人が一緒に楽しみ、たくさんの笑顔が溶け合うような優しい街の実現 先進モビリティとXRコンテンツを組み合わせた新たな観光サービスにより地域経済を活性化するビジネスモデルを構築
企画概要
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画名称案 「小型自動運転モビリティ PARTNER MOBILITY ONE with PiiMo 走行プロジェクト 2024」 ■ 企画概要案 以下2つの企画を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・事業性を高める新たな体験価値の試行 ・実装に向けた事業パッケージ構築

活用する主な先端技術	
<ol style="list-style-type: none"> 「PARTNER MOBILITY ONE (Le DESIGN)」と「PiiMo (パナソニックPE)」を組み合わせた先進観光モビリティ群 GPS-RTK、LiDAR等のセンサフュージョンによる高度自律移動技術 自動運転モビリティ+VRによる新たな観光サービス 	
企画参加者・役割	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画・運営：Le DESIGN ■ 連携協力：Panasonic、docomo、HASHILUS※ ※VRコンテンツ制作担当 	
3か年計画	
1年目 (済)	■ PM-ONE+PiiMoによる観光サービスの導入エリア検討
2年目 (済)	<ul style="list-style-type: none"> ■ PM-ONE+PiiMoによる観光サービスの先行導入実証と事業性評価 ■ 音声ARガイドとの連携実証
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ PM-ONE+PiiMo & VRコンテンツによる体験価値の向上 ■ VRガイドの事業性評価 ■ 実装に向けた事業パッケージ構築
想定KPI	
■ ユーザー満足度（アンケート）	

3. 令和6年度実証事業の実施状況

PMO（PARTNER MOBILITY ONE）等による先進観光サービスの実証

令和6年度実証内容



■ 実施日程（予定）

2024年11月16日（土）～22（金）、25（月）～27日（水）

■ 取組内容

自動運転で足元を気にすることなく、安心して動きのあるVRコンテンツを楽しめる先進観光サービス

【VRコンテンツのイメージ】

- ✓ 昼の来場であってもお台場の夜景が楽しめたり、春でなくても桜が楽しめるコンテンツ
- ✓ ランドマーク（東京タワー、スカイツリー等）CGを用い、お台場建造物との対比を楽しむコンテンツ
- ✓ お台場をゲートウェイとして国内別エリアにインバウンドをいざなうような地域魅力発信コンテンツ

モビリティPT：モビリティパーク運営の調整状況

➤ 出展が決定した事業者は暫定で下記5社7種。

出展調整済み企業一覧

#	社名	出展希望のモビリティ等情報	出展希望台数
1	RT.ワークス	歩行アシストロボット（電動アシスト機能がついた歩行器） 品名：ロボットアシストウォーカー RT.3 ●速度：歩く速度	2～3台
2	glafit	【特定小型原動機付自転車（NFR-01 Pro）】 ●速度：6km/hまでに制限	2台
3	Ashirase	靴装着型振動デバイスを用いたナビゲーション「あしらせ」 （スマートフォンのiPhoneアプリ「あしらせアプリ」と連携して動かす） ●速度：N/A	1台（最大3台）
4	ストリーモ	【移動小型車 S01JW】 ●速度：6km/h	4台
		【特定小型原動機付自転車S01JTA】 ●速度：6km/hまでに制限	4台
5	日信電子サービス	追従型電動車いす （市販の電動車いすにオプション品の追従モジュールを装着） 【SCOO J21+Go-With】 ※分離式 ●速度：6km/h以下	1台
		【SCOO J13+Go-With】 ※縦折りたたみ式 ●速度：6km/h以下	1台

- ✓ 出展に向けた出展事業者との合意事項
 - ・運搬やレンタル、レクチャーに関して運営委託事業者等の関係者へ費用は発生しない。
 - ・出展希望台数は各社希望台数を記載。
運営委託事業者にて出展区画等に応じたバランスを見て決定・通知する。

モビリティパーク運営予定

- ・8月中旬：
運営委託事業者へ出展事業者ご紹介・調整開始
- ・8月下旬～：
警察、公園管理者等調整
- ・9月中旬～：
HP公開
- ・9/24～：
現地設営
- ・9/27-11/24（合計約30日間）：
モビリティパーク実施
- ・12月：
アンケート結果等とりまとめ

3 令和6年度実証事業の実施状況

音のAR体験『oto rea』による臨海エリア拡張基盤構築 ～「歴史・文化・自然・環境」がもたらす持続的まち価値創出サービスの開発～

テーマ
環境・サステナビリティ
臨海副都心の課題
<ol style="list-style-type: none">1. 臨海副都心エリアの「環境・サステナビリティ」分野の魅力が都民や来訪者に十分に認知されていない2. エリア内の個々の魅力が点にとどまり、面=有機的な繋がりが事業主体同士で生み出せていない3. リピーターを創出し、何度も来訪する仕組みが不在
2025年に目指す姿
<ol style="list-style-type: none">1. 当エリアを訪れるあらゆる人々が、「音のAR」による全く新しい体験を通じて街の取組等を学び、自然環境に対する意識や当エリアへの好感度を高め、リピーターとなる2. “自然環境に手を加えずに空間に情報を付加できる”という特性を生かした様々なコンテンツにより、障がい者や訪日外国人、小・中学生など幅広い来訪者が街の魅力を楽しみ学び続けている
企画概要
<ul style="list-style-type: none">■ 企画名称案 「音のAR体験『oto rea』による臨海エリア拡張基盤構築 デジタル技術により、臨海副都心エリアの環境を体験・学習する施策推進■ 企画概要案 デジタルツイン：サイバー空間上に様々な音源を設置し、フィジカル空間と重ね合わせることで、全く新しい音響体験を提供する。既存の環境に一切干渉することなく重ね合わせることで、全く新しい音響体験を提供する

活用する主な先端技術	
<ol style="list-style-type: none">1. 世界初のARcloudオーサリングツール『Auris』2. 高感度センサーと立体音響装置を搭載したウェアラブルデバイスなど	
企画参加者・役割	
<ul style="list-style-type: none">■ 全体設計・推進管理/体験コンテンツ制作/実証イベント運営/効果検証：株式会社乃村工芸社■ 基盤システム設計・開発：株式会社GATARI■ 協力企業：ハレガケ、SUSHI TOP、ピクシーダストテクノロジーズ	
3か年計画	
1年目 (済)	<ul style="list-style-type: none">■ 基盤システムの開発■ 実証テスト=サービス需要の計測
2年目	<ul style="list-style-type: none">■ サービス事業の拡張 = 体験コンテンツの追加■ 事業化（マネタイズ）の検証
3年目	<ul style="list-style-type: none">■ プラットフォーム基盤の確立■ 体験サービスプログラムとして定着■ 活用/コラボする事業者の増加
想定KPI	
<ul style="list-style-type: none">■ 体験者満足度（アンケート）■ 関係事業者評価（アンケート）	

3 令和6年度実証事業の実施状況

音のAR体験『oto rea』による臨海エリア拡張基盤構築 ～「歴史・文化・自然・環境」がもたらす持続的まち価値創出サービスの開発～

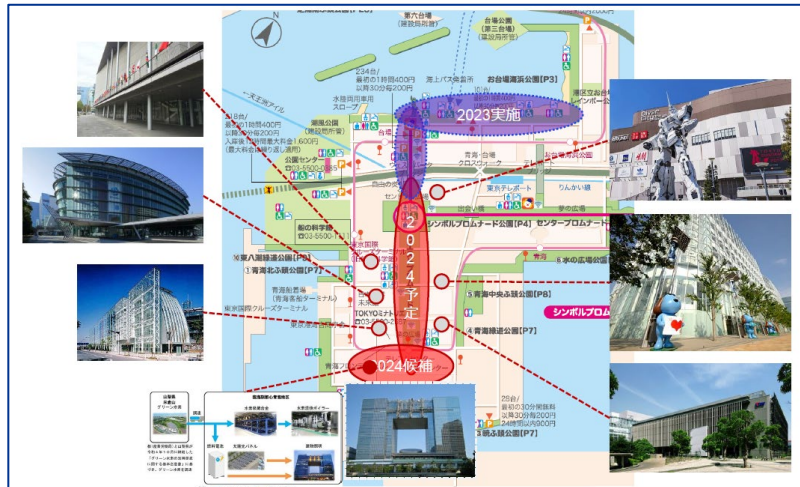
令和6年度実証内容

■ 実施日程

2025年1月中旬～2月上旬

■ 事業の方向性

- ①エリアの拡張：ウエストプロムナード～テレコムセンターエリアでの実施（左下図）
- ②ターゲットの拡張：リピーター＝複数回利用者層の検証
- ③コンテンツの拡張：『oto rea』の特性を活かし、ゲーム性を重視した新たなコンテンツプログラムの検証（右下図）
- ④事業コラボへの拡張：テレコムセンターをはじめとする周辺施設（事業者）との連動（左下図）
- ⑤テック技術の拡張：ユーザー経験（ログ）の蓄積化＝Save機能の実装、経路情報などの可視化（ローカル座標、タイムスタンプ）など



【ユーザー向け（フロント）】

・アカウント機能
・アウトゲーム
フラグ機能

経験値セーブが可能に！

経験値の違いによる体験シナリオの変化や経時的な『oto rea』利用頻度の向上に繋げることができる。

・画像トリガー機能

・環境フラグ
(時間帯可変)
機能

・フィジカルエンド
機能

【事業者向け（バック）】

・経路実績
(体験データ)
保存機能



BIツールで管理分析！


臨海副都心エリアにおけるMRウォークスルー体験

テーマ	データ利活用促進（誘引）
実施事業者	ティフォン株式会社
日時	2024/12/20（金）～ 2024/12/29（日）
場所	セントラル広場東端～出会い橋東端
実証内容	最先端のMR(Mixed Reality)デバイスを利用した映像コンテンツを体験するMRウォークスルーによるエリアへの誘引を図る。 同時に、MRデバイスを用いない手持ちのモバイル端末を用いたAR体験も並行して展開する。

実証イメージ


利用デバイス

- 使用デバイス：Apple Vision Pro
2024年夏に日本発売予定の最新デバイス Apple Vision Proを使用予定。

- 使用デバイス：スマートフォン
来訪者が自身のスマートフォンを使用してAR体験を楽しめます。




シンボルプロムナード公園

MR (Mixed Reality) 体験イメージ



クライマックスではお台場の上空を飛ぶVR体験
常設時はシーズン毎に様々なテーマの体験が可能

3. 令和6年度実証事業の実施状況

デジタルサイネージを活用したリアルタイム混雑情報配信によるエリア回遊促進

テーマ	データ利活用促進（回遊性）
実施事業者	株式会社バカン
日時	2024年9月下旬（予定）～2025年3月末
場所	設置協力先を調整中
実証内容	飲食店等にデジタルサイネージを設置、混雑状況を表示し、空き店舗等への回遊を促す。待ち時間削減による地域の経済損失の抑止や、混雑していない店舗等の選択肢の提示により、臨海エリアにおける快適な回遊体験の提供を目指す。

実証イメージ



デジタルサイネージを活用したリアルタイム混雑情報配信によるエリア回遊促進

想定KPI等 サイネージへの覗き込みや、利用情報から回遊結果に係る情報の取得と分析を実施する。

項目 **混雑可視化による満足度UP** **経済効果** **エリア内の回遊**

想定KPI

- ①サイネージ視聴者数
-総来訪者数の5%(※)
- ②ご利用者アンケート満足度
-90%以上
- ③サイネージ表示店舗混雑度
-昨対比集客数10%増

- ①クーポンご利用者
-総来訪者数の5%(※)
- ②モバイルサイト閲覧数 PV/UU
-総来訪者数の5%(※)

- ①クーポンご利用者
-総来訪者数の5%(※)
- ②モバイルサイト閲覧数 PV/UU
-総来訪者数の5%(※)

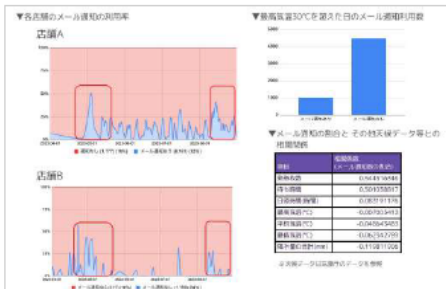
取得データ

- ①サイネージ視聴者数データ
- ②アンケートデータ
- ③各施設・店舗の混雑傾向データ

- ①アンケートデータ
- ②モバイルサイトPVデータ

- ①アンケートデータ
- ②モバイルサイトPVデータ

(※)webサイト上での広告掲載位置、サイネージ設置位置等によって変動が想定されます。



人流データを用いた回遊ロジック分析と回遊促進施策による変化の測定

テーマ	データ利活用促進（人流データ）
実施事業者	株式会社unerry
日時	2024年11月～12月に回遊施策を実施 ※人流データ取得：2025年3月まで継続
場所	臨海副都心エリア全域
実証内容	モバイル端末に導入されている様々なアプリケーションから位置情報データを取得し、時系列に沿って地図上にマッピングする。過去のエリア内イベントにおける人流データを分析し、今年度イベントでの動きを予測。また、広告配信を行い人流データの変化をデータ化、エリア内事業者へ実証結果の展開を行う。

実証イメージ



過去分析・ロジック構築

昨年度のイベント実績及び人流データを用い、イベント来訪者の来訪経路・立ち寄り率を評価。



予測・施策検討

今年度の実イベント情報にもとづき、来訪動線・立ち寄り率を予測し、どこからどこへの立ち寄り誘発が有効かを設計



人流データを用いた回遊ロジック分析と回遊促進施策による変化の測定

データ可視化

得られた人流データから分析と可視化を行い、エリア内のマーケティングに寄与する情報を構築、ノウハウとして展開する。

施設・店舗への来訪計測

ビルインや地下店舗を含む
日本全国250万POIの来店・来訪計測をAIで実現



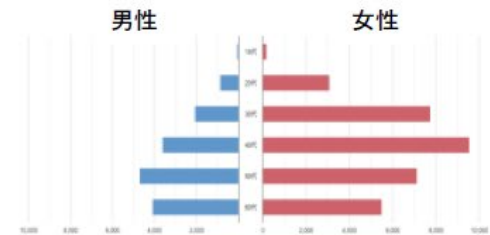
プロファイリング(行動DNA)

200以上の店舗カテゴリの訪問傾向を
1ユーザずつプロファイリング



性別・年代

行動の特性にもとづき、性別・年代を推計し、
1人1人の属性情報として保持



居住地・勤務地

夜間の滞在場所を居住地、昼間を勤務地とし、
出社率推移なども特定



移動手段・状況推定

徒歩・自動車・電車などの
移動手段、日常・非日常を推定



移動経路

道路情報とのマッチングにより、徒歩・車での
移動経路を識別。



4

令和6年度の
新規取組

令和6年度の新規取組

- ▶ 前回総会でのご意見を踏まえ、各PTの活動状況に関する構成員向けレターを月次で発出。
- ▶ スタートアップ社会実装支援窓口として、臨海副都心まちづくり協議会様のにぎわいPTにおいて、スタートアップ5社を紹介しました。

2024年7月DIC協議会レター（1/2）

エンタメPT

【会議体】
・第二回PT：2024年8月21日（水） 13時～

【検討事項の状況】
・実証事業の推進状況を確認

【直近の事業時期】
・2024年8月「EVカート・チャレンジ_シミュレーターとリアルタイム対決」
※日程確定後にアップデート

【その他構成員への周知】
・特になし

モビリティPT

【会議体】
・第二回PT：2024年7月31日（水） 15時～

【検討事項の状況】
・実証事業の推進状況を確認

【直近の事業時期】
・2024年7月～ AIスツースペース屋外走行テスト
～7月～8月：未来館⇄テレコムセンター駅間
～8月～11月：未来館～ダイバーシティ間

【その他構成員への周知】
・モビリティパーク運営事業者の決定（株式会社テアオーダグループ）

防災PT

【会議体】
・第二回PT：2024年8月21日（水） 13時～

【検討事項の状況】
・実証事業実施結果の速報

【直近の事業時期】
・2024年8月2日～4日「TIF2024デジタル防災イベント」

【その他構成員への周知】
・実証事業に関してFNNプライムオンラインにて放送（8月3日）

環境・サステナビリティPT

【会議体】
・第二回PT：2024年8月28日（水） 15時～

【検討事項の状況】
・実証事業の推進状況を確認

【直近の事業時期】
・周知なし

【その他構成員への周知】
・特になし



2024年7月DIC協議会レター（2/2）

- ▶ スタートアップ社会実装支援窓口の活動として、以下の企業をまち協にぎわいPT構成員に対してご紹介した（7月25日）。

企業名	属性	事業概要	URL	資料
株式会社 eMoBi	モビリティ	ホテルや駅を起点とした電動トゥクトゥクのシェアリングサービスの展開	LINK	LINK
株式会社 Sally	エンタメ	マードーミステリープラットフォーム「UZU」の開発・運営	LINK	LINK
株式会社 xTension	エンタメ	プロジェクターを用いて世界中の個室・スペースをライブ会場にリブレースし、ライブを時間、場所の制約から解放するアプリケーションサービスの展開	LINK	LINK
株式会社 REDCLIFF	エンタメ	ドローンショーの企画・運営	LINK	LINK
株式会社 TechVoice	モビリティ（広告）	デジタルサイネージ付バイクを利用した屋外事業の展開	LINK	N/A

5

今後の予定

今年度の会議予定

※以下、日付の記載がある会は確定日です。

■ 総会（対面のみ）

- 第6回総会 : 12月16日週
主な議題（予定）
 - －令和6年度PT・検討会の開催状況
 - －令和6年度実証事業の実施状況
 - －令和7年度事業の方向性

- 第7回総会 : 3月17日週
主な議題（予定）
 - －令和6年度PT・検討会の開催結果
 - －令和6年度実証事業の実施結果
 - －令和6年度スタートアップ社会実装支援窓口の活動報告
 - －令和7年度事業の概要

今年度の会議予定

■インタメPT

- 第3回PT : 10月14日週
- 第4回PT : 12月2日週
- 第5回PT : 2月3日週
- 第6回PT : 3月3日週

■モビリティPT

- 第3回PT : 10月14日週
- 第4回PT : 12月2日週
- 第5回PT : 1月20日週
- 第6回PT : 2月24日週

今年度の会議予定

■ 防災PT

- 第3回PT : 10月14日週
- 第4回PT : 12月2日週
- 第5回PT : 2月3日週
- 第6回PT : 3月3日週

■ 環境・サステナビリティPT

- 第3回PT : 10月28日週
- 第4回PT : 12月9日週
- 第5回PT : 2月10日週
- 第6回PT : 3月10日週

今年度の会議予定

■データ利活用促進検討会

- 第3回検討会 : 9月19日
- 第4回検討会 : 10月21日週
- 第5回検討会 : 11月18日週
- 第6回検討会 : 12月16日週
- 第7回検討会 : 1月20日週
- 第8回検討会 : 2月17日週
- 第9回検討会 : 3月10日週

お問い合わせ先

DIC協議会事務局

担当者 : 佐々木・中村・稲葉
メールアドレス : dic@jp.kpmg.com